

Title	香川懸版『學問のすゝめ』
Sub Title	
Author	會田, 倉吉(Aida, Kurakichi)
Publisher	三田史学会
Publication year	1961
Jtitle	史学 Vol.34, No.2 (1961. 12) ,p.84(204)- 84(204)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	余白録
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19611200-0084

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

香川縣版『學問のすゝめ』

『學問のすゝめ』はいうまでもなく福澤諭吉の代表的な著作の一つで、ことに、かれがみずから的新主張をはじめて大膽無遠慮に發表したものとして注目される。明治五年二月その第一編を刊行し、同九年十一月までのおよそ五年間に十七編を世に送つて大いに迎えられ、發兌の數も全編の總計は實に數百萬部に及ぼうといわれ、なかでも、「天は人の上に人を造らず……」の有名な句ではじまる初編は、出版とともにたちまち非常な評判を得て、そのため偽版までが數多く横行し、それだけでも數十萬部には上つたろうということである。

そして、それらの偽版として知られている主なものには、これまでにも、たとえば明治五年五月付の愛知縣版『學問のさとし』とか、偽版とはいっても、まつたく原文のままで少しも改竄のあとのない小田縣日新社刊行のものとかがあつたが（『福澤諭吉全集』第三卷後記參照）、最近さらに香川縣版というものがあることがわかつた。

本文はやはり原文をそつくりそのまま複刻したもので、それも木活により、全丁袋綴、表紙共で十三葉から成つてゐる。したがつて、字配りなどはもちろん原本との相違を免がれず、二十

字詰九行となつてゐるほか、假名も題簽以外は片假名が用いられ、書物全體の大きさも縦二二・六センチ、横一六・一センチと、やや大きめである。のみならず、特に異のある點は原本の端書が省かれて、代わりに左のような一文を付してゐるところに存する。

此書ハ中津ニ學校ヲ開クニヨリ福澤小幡ノ綴リテ其鄉友ニ示シ、學問活用ノ趣意ヲ盡セル冊子ナリサレハ廣ク世ニ布告セハ其益モ亦廣カルヘシトテ慶應義塾ノ活字板ヲモテモノシケルヲ猶翻刻シテ此縣ノ士民エ普ク示サンカタメ頒ケ與フル也
明治五年

香川縣

けだし、その意やまことに結構といわねばならないものの、當時の福澤が、偽版の横行は文運興隆の妨であるとの見地から、わが國における著作権確立のためいかにも峻烈執拗な抗争をつづけていたことを思えば、これなどももとよりその槍玉にあげられるべきものであつたに違いない。

しかし、著作権だの版權だのというもののまだよく知られていない時代のこととて、別に他意なく、このようにして良書がしばしば複刻され、それがまた一面おのずからそれら良書の流布普及に一役を買つたであろうことも、否めない事實といえよう。

(會田倉吉)